

国語科

国語科における指導の重点（身に付けさせたい力） ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア【読むこと】	イ【書くこと】
【読むこと】 叙述に基づいて、どのような内容が書かれているかを把握することができる。	（言葉の特徴や使い方） 語句と語句との関係や語句の意味、使い方を理解する力を育てる。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（2月）
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> 語彙の習得が十分でなく、読み取りが十分でないところがある。ア 「は」「を」「へ」などの助詞を文章に正しく使うことの定着が確実にされていない。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉集めをしたり、読書に親しむ時間を確保したりすることで、語彙を増やす。ア 助詞に限らず、正しい語句の使い方を知るために、文章を書く機会を多くする。イ 	通年 通年	
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> 叙述に基づいて、人物の心情を想像したり読み取ったりすることは概ねできるが、読み取りを文章化することが難しい。ア 必要な情報が抜けた文章になるときもあり、主語が抜ける文章を書くことも多い。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 読み物教材では、精査・解釈や考えの形成を、教科書のモデル文を参考にしたり比較したりして考えるよう、助言する。ア 型に沿った文章の書き方を示しながら、学習した漢字を短文で表したり、日記を書いたり、時系列を意識した文章を書けるよう付箋を使ったりする経験を多く積ませる。イ 	通年 通年	
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 人物の心情、様子などを読み取ることは概ねできるが、その内容を表出したり、自分の言葉でまとめたりすることが難しい。ア 語句の意味や使い方が分からない言葉が多い。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 物語単元では、登場人物の心情を表す叙述に線を引くなど本文から読み取る活動を取り入れ、場面による心情の変化を整理させる。ア 日常より国語辞典や漢字辞典を身近に置き、自身で調べさせることを大切にする。イ 	通年 通年	
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> 人物の心情を読み取り、表現することはできるが、多面的・多角的な視点から考えることができない。ア 語句の知識や、語句と語句の関係性、使い方から分からない言葉が多い。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 物語単元では、個人での読み取り後、グループや学級での話し合い活動を十分に行う。ア 漢字や慣用句などを身に付けていくために、ドリルや練習帳と国語辞典や漢字辞典の活用を充実させる。イ 	通年 通年	
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> 叙述から登場人物の心情を読み取ることは 	<ul style="list-style-type: none"> 中心人物の心情や、その変化を読み取る活動 	通年	

算数科

算数科における指導の重点（身に付けさせたい力） ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア【思考力・判断力・表現力等】	イ【知識及び技能】
根拠を基にしながら筋道を立てて考え、表現する力を身に付けさせる。	計算や作図などの手順を理解し、正しく処理できる力を身に付ける。

学年	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（2月）
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・問題文から、場面理解ができず、立式につながらない児童が多い。ア ・加法、減法の計算で、10を十分に意識できず、計算に手間取る児童が見られる。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体物やブロック操作を通して、思考を整理し、式や言葉に結び付けていく。ア ・学習内容が定着するように、プリントやドリル、タブレット等を活用し、既習事項の復習を繰り返し実施する。イ 	通年 通年	
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・図や式、記号、言葉などを適切に用いて自分の考えや学習したことなどを表現できる児童が少ない。ア ・前学年での既習事項の定着が十分でない児童がいる。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを表現するときの基礎・基本となる「型」を示し、活用する場を多く設ける。ア ・朝学習や家庭学習を活用し、基礎・基本の定着を図るとともに、日常生活の中で他教科の中でも話題に出すなど既習事項を意識させるようにする。イ 	通年 通年	
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを式や図、表などであらわせない児童がいる。ア ・2年生でのかけ算の既習事項が確実に定着していない児童がいる。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決学習ができる内容を精選し、一つの単元において、数回は図や表などを活用して思考させる授業を実施する。ア ・プリントやドリル、ミライシード等を活用し、既習事項の復習を行い、学習内容の理解の定着を図り、技能を伸ばす。イ 	通年 朝学習や単元の習熟の時間	
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを表現することが苦手な児童がいる。ア ・除法、乗法の計算技能に課題がある児童がいる。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを、図や絵を用いてまとめる時間を確保する。ア ・既習の基本的な計算を基に考えさせ、繰り返し問題に取り組み、学習内容の定着を図る。イ 	通年 通年	

第5学年	<ul style="list-style-type: none"> ・正しく情報を読み取り、根拠を基にしながら筋道を立てて考えることに課題がある。ア ・基本的な計算問題や作図問題の定着に課題がある児童がいる。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題文から分かることに線を引いたり、図や数直線に表して立式したりする習慣を身に付けられるようにする。ア ・朝学習や家庭学習でミライシードやドリル等を活用し、基礎・基本の定着を図る。イ 	通年 通年	
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> ・立式したり、答えを求めたりすることができていても、その根拠を説明したり表現したりすることが苦手である。ア ・基本的な計算問題や作図問題の定着が十分でない児童がいる。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・立式だけでなく、その根拠を言葉や図、数直線等で表す機会を設ける。ア ・朝学習や家庭学習、習熟の時間を活用して、基礎・基本の定着を図る。イ 	通年 通年	

<p>■「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について</p> <p>1年 タブレット端末を活用して、自分の考えを表現したり、発表したりして学びを深める。</p> <p>2年 タブレット端末を活用して、自分の考えを表現したり、発表したりして学びを深める。</p> <p>3年 タブレット端末を活用して、自分の考えをまとめたり、発表したりして学びを深める。</p> <p>4年 タブレット端末を活用して、自分の考えを整理したり、説明し合ったりして学びを深める。</p> <p>5年 タブレット端末を使って自分の考えを説明し合ったり、全体で共有しながら発表させたりする。</p> <p>6年 自分の考えを小集団や全体で説明させるだけでなく、友達の考えを説明する活動も取り入れる。</p>	<p>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について</p> <p>1年 毎時間、めあての振り返りを行うことや、日常生活の中で、学びを生かす機会を意図的に設ける。</p> <p>2年 毎時間、めあての振り返りを行うことや、日常生活の中で、学びを生かす機会を意図的に設ける。</p> <p>3年 毎時間、めあての振り返りを行うことや、習熟の時間を活用してミライシード等で単元末に学習の理解の定着を図る。</p> <p>4年 毎時間、めあての振り返りを行うことや、習熟の時間を活用してミライシード等で単元末に学習の理解の定着を図る。</p> <p>5年 めあての振り返りやまとめ、学習内容の確認を全体で行う。</p> <p>6年 めあての振り返りやまとめ、学習内容の確認を全体で行う。</p>
---	---

理科

理科における指導の重点（身に付けさせたい力） ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア【思考力、判断力、表現力等】	イ【学びに向かう力、人間性等】
<ul style="list-style-type: none"> • 比較、関連、条件制御、推論を中心に実験・観察を行い、結果から結論を導き出す問題解決能力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 連光寺の身近な自然に関心を持ち、自然事象と知識を結び付けながら主体的に学習する態度を育てる。 • 科学的事象に関心を持ち、「新たな問い」や「新たな気付き」を多くもてる心情を育てる。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（2月）
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> • 自然事象に接し、観察する力はついてきたが、その中から問題を見いだすまでには至っていない。ア • 実験、観察をして理解したことを知識に結び付けるまでには至っていない。イ 	<ul style="list-style-type: none"> • 自然に多く触れ、二つ以上の対象物を比べ、共通点や相違点を見いだしながら観察できるように指導していく。ア • 自分たちの生活の中の事象と既習の知識とを意識して結び付けから学習に取り組めるよう単元末には発展的な学習を取り入れる。イ 	通年 通年	
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> • 予想や仮説に根拠を発想できない、述べられない児童が目立つ。ア • 自分の考えを発言し、意欲をもって取り組むことができるが、既習内容や生活経験を関係付けて事象を説明できないことがある。イ 	<ul style="list-style-type: none"> • 日常経験と結び付けて予想することを常に指導し、十分な時間を確保する。ア • 自然事象と用語を結び付けて、結論や考察が行えるよう、ペアやグループ学習など、説明する時間を設定する説明する。イ 	通年 通年	
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> • 学習意欲は高いが、因果関係を捉えたり、関連性に気付いたりする力が弱い。ア・イ 	<ul style="list-style-type: none"> • データや表・グラフなどを用いて比較したり類似点を探したりさせる。ア 	各単元の導入と終末	
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> • 考察する場面において、何を書いているのか分からなかったり、どのように考えているのか分からなかったりする。ア • 知識と実生活が結び付かず、十分に活用できないことが多い。イ 	<ul style="list-style-type: none"> • 予想と結果の相違から導き出されたことを、考察にまとめていくことを、繰り返し指導する。ア • 結果を多面的・多角的に考えることができるよう考察した内容を児童同士で交流できるようにする。ア • 学習した内容を生かして実験を行い、実生活や「総合的な学習の時間」等の授業と関連付けて考えさせる機会を増やす。イ 	通年 通年	

■「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

- 3年 観察カードやポートフォリオとして、振り返りや継続的な記録として学習に生かす。
- 4年 実験の結果や観察の記録をまとめたり、考察や発表を行ったりする場面でタブレット端末を活用する。
- 5年 学習課題について調べた事柄や情報を関連付けてまとめる活動を行う。
- 6年 結果から考察する場面において、児童同士の交流を多く行い、考えが深まるようにする。

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

- 3年 時系列や実生活との結び付きを意識させながら学習に取り組ませていく。
- 4年 振り返りを行い、日常生活への適用を考えたり、今後の学習への意欲を高めたりする。
- 5年 自分の予想と結果を関連付けて考察させることにより、今後の学習への意欲を高める。
- 6年 本時で学んだことや、疑問に思ったことを実生活や「総合的な学習の時間」等の授業と結び付けるようにしていく。

第6学年	<ul style="list-style-type: none"> 統計や年表などの資料から、必要な情報を適切に読み取って、まとめることが苦手な児童がいる。 <input type="checkbox"/> 	<ul style="list-style-type: none"> 統計や年表、地図帳などの基礎的な資料に触れる機会を多く設定し、資料から分かることを比較・関連して読み取らせ、話し合い活動や交流活動を通して、考えをまとめる活動を繰り返し取り入れる。 <input type="checkbox"/> 	通年	
	<ul style="list-style-type: none"> 歴史上の出来事や様々な伝統文化に対して難しさを感じ、調べることに意欲をもつことができない児童がいる。 <input type="checkbox"/> 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が興味や関心をもつことができるような資料を用意したり、具体物の複製を提示したりし、児童の学習意欲を高められるようにする。 <input type="checkbox"/> 	通年	

<p>■「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について</p> <p>3年 写真や動画などの課題に沿った資料配布を効果的に行い、児童が資料を活用して学びを深めることができるようにする。</p> <p>4年 学習に必要な資料を適切に選ぶ力や、情報を読み取る力を高めるためにタブレット端末を活用する。</p> <p>5年 社会的事象の特色や意味について、考えをペアやグループなどでタブレット端末を使用し、共有する活動を増やす。</p> <p>6年 社会的事象の特色や意味について、話し合い活動やタブレット端末を使った交流活動を通して、多面的・多角的に捉えられるようにする。</p>	<p>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について</p> <p>3年 身近な事柄に対する知識や理解を確かめ、次回への意欲を高める。</p> <p>4年 3年生での既習事項から、類推したり予想したりして、自分の学習の進め方を考えさせる。</p> <p>5年 学習課題の明示と、その解決のために探究活動の時間を設定する。</p> <p>6年 自分で学習課題を設定すること、その解決に向けた探究活動の時間を確保する。</p>
--	--

生活科

生活科における指導の重点（身に付けさせたい力） ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 【思考力、判断力、表現力等の基礎】	イ 【学びに向かう力・人間性等】
具体的な活動や体験を通して、身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現する力を育てる。	具体的な活動や体験を通して児童が思いや願いに基づいて、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけようとする態度を養う。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（2月）
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> • 伝えたいことはあるが、伝え方の方法は、まだ十分に知らない。 ア • それぞれが楽しく活動できているが、友達との関わりは浅く、互いに協力したり助け合ったりする意識が少ない児童が多い。 イ 	<ul style="list-style-type: none"> • 伝え方の方法は様々あることを知り、それを実践する発表や紹介の機会を、単元の間や終末に設定するなどして増やす。 ア • 活動の中で友達と関わる時間を設け、協力したり助け合ったりできるようにする。 イ 	通年 通年	
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> • 効果的な伝え方を選ぶ力や、表現する力が十分でない。 ア • 自分のしたいことの見通しをもったり、計画したりすることが難しく、互いに協力したり助け合ったりする意識には至っていない。 イ 	<ul style="list-style-type: none"> • 絵や作文の他に、動作や劇、タブレット端末を用いたプレゼンテーションなどの表現方法を知り、自分たちの伝えたいことに合った表現方法を選んで練習をする機会を設ける。 ア • 友達と話し合いをしたり、クラスで活動したりする際に、生活科で経験したやり方やコツ、見付けたことや考えたことを生かせるように声掛けをする。 イ 	通年 通年	

<p>■「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について</p> <p>1年 タブレット端末を活用して、記録をとり、写真を基に自分の考えを表現したり、発表したりして学びを深める。</p> <p>2年 自らの発見を写真に撮ることで、友達に伝えようとする意識を高め、対話的に学びを深めることができるようにする。</p>	<p>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について</p> <p>1年 ポートフォリオを適宜活用し、見通しをもって活動したり、活動を振り返ったりできるようにする。</p> <p>2年 見通しをもって活動したり次回につなげたりするために、めあての振り返りを行い、活動内容を全体で共有する。</p>
--	---